

言葉を取りまく言葉

—— 連想を手がかりとして言葉のイメージの多重性を探る ——

鈴木 智 美

キーワード：言葉の非記号性、イメージの多重性、新たな意味可能性、
連想のキーワード、連想

要 旨

本稿では言葉のイメージの多重性を探るため、日本人大学院生30名を対象に言葉の連想を手がかりとした実験を行い、その結果をまとめ、報告する。言葉の持つ意味・音・書記の各側面が関与することにより形成される言葉の豊かな多重のイメージを、一つの言葉から連想される他の多くの言葉を見ることによって探ることを目的としたものである。なお関連を有する先行研究の検討、また実験の結果をもとにした言葉の新たな意味可能性の生成についての考察は鈴木（1999a）において行っている。

1 はじめに

本稿では言葉の⁽¹⁾イメージの多重性を探るため、日本人大学院生30名に言葉の連想を手がかりとした実験を行った結果をまとめ、報告する。ここで「イメージ」とするのは、辞書的な意味記述だけで十分にとらえることのできない、言葉の価値の豊かな広がり⁽²⁾を指して言うものである。本稿では、一つの言葉には言葉の持つ意味、音、書記の各側面のいずれもが関与することにより豊かな多重のイメージが形成されているとの見方⁽³⁾をとる。

本稿の目的は、言葉の連想の実態を探ることを通じて、通常の言葉の持つ⁽⁴⁾イメージの多重性を⁽⁵⁾実証的に探ることである。人はある一つの言葉を他の言葉と全く無関係に単独でとらえるのではなく、その言葉を取りまく他の様々な言葉との相互⁽⁶⁾関連の中でそれをとらえるとの考えに立つ。

また本稿は、話者の内的体験と言葉との関わりを考えようとする一連の考察(鈴木(1998a, 1998b, 1999b)の延長線上に位置付けられるものである。鈴木(1999b)では、丸山(1981, 1983, 1984他)の「力動記号学」(丸山(1993:67))における視点を再評価し、言葉の本質的な「非記号性」⁽⁶⁾と、日常の惰性化・硬直化した構造内における「記号性」という逆説的な両面をとらえることを、話者の内的体験と言葉との関わりについて包括的に考えていく際の重要な鍵になるものとして位置付けた。

言葉のイメージの多重性を探るという本稿の目的は、このような言葉の非記号性に着目し、言葉が我々の新たな内的体験の世界をどのように分節し、新たな意味可能性をどのように生み出していくのか⁽⁷⁾を考察していくことを将来的な課題として視野に入れたものである。

2 実験の概要

2.1 方法

本稿では言葉のイメージの多重性を探るために、言葉の連想という方法をとる。ある一つ言葉のイメージの多重性は、その言葉を取りまく他の様々な言葉の一つの手がかりとして探ることができると本稿では考える。よって言葉のイメージの多重性を探るためには、ある言葉を取りまくそれらの様々な言葉を何らかの形で引き出してくることが必要となる。本稿では実験の協力者それぞれにある一つ言葉を選んでもらい、その言葉から連想される言葉を自由に記述してもら⁽⁸⁾うという方法をとる。連想されたそれらの様々な言葉を見ることにより、連想の中心となった言葉のイメージの多重性を探ろうとするものである。

言葉の連想に関しては梅本(1969)による基礎研究が行われている。これは大学生1000名を対象に210の刺激語を順に提示し、各々の刺激語に対して示された第一連想反応語を集計したものである。各刺激語から得られた連想反応語は、五十音順および頻度順に検索することができる。この研究は様々な言語研究に役立てるための基礎資料を整備することを目的として行われたものであり、例えば個々の言葉の連想がどのような関係に基づき成り立っているのか⁽⁹⁾を調べようとする時

などには、この研究結果は非常に有益な基礎資料を提供してくれると思われる。

しかし本稿の目的は、一つの言葉のイメージの“多重性”を見ることである。よって本稿では、多数の刺激語を提示してそれらに対する連想反応を次々と調べていくという方法をとるのではなく、実験の協力者ごとに一つの刺激語を設定してもらい（以下本稿では、連想の中心として設定されたこのような言葉を連想の「キーワード」と呼ぶ）、その一つの言葉（キーワード）から連想される様々な言葉を時間内に自由に記してもらうという方法をとる。

実験は1999年5月6日より6月9日にかけて名古屋大学において行った¹⁰⁰。実験は原則として1名ずつ個別に行った。時間等の都合により2名で行った場合が3例あるが、いずれも連想される言葉を記入した後のインタビューは個別に行っている。

2.2 協力者

実験の協力者は名古屋大学大学院に在籍する日本語を母語とする学生30名（男女各15名）である。年齢は20代が23名（男性12名、女性11名）、30代が6名（男性2名、女性4名）、40代が男性1名である。

協力者の大学院生はいずれも何らかの形で言語に関わる分野を専攻している。文法論、意味論、談話文法、音声学、音韻論、社会言語学、日本語教育、コンピュータ言語処理、言語文化論、哲学、論理学などがその専門である。

またその出身地は中部地方を中心として、関東地方および関西より以西（中国、九州、沖縄地方）と様々ではあるが、特に注釈を必要とするような地域方言の顕現は認められなかった¹⁰¹。

2.3 手順

A4版の紙を用意し、実験の協力者に以下のような手順を説明する。まず連想の中心となるキーワードを一つ決め、その言葉から思い浮かぶ様々な言葉を、キーワードを中心として放射状に用紙に記入して貰ってもらう。連想によって思い浮かんだ一続きの言葉は線でつなぎ一列に記入する。ただし連想がどんどんつながりキーワードとは完全に離れてしまったと思われる場合は、その一続きの

言葉をそれ以上に深追いすることはせず再びキーワードに戻る。もちろん連想される言葉が1回に一つであってもかまわない。また同じ言葉が何回も出てきてもかまわない。またどんな言葉でも思い浮かんだ言葉があれば記入してかまわない。時間は10分間である。

実験の協力者自身に連想の中心となるキーワードを選んでもらう¹²。決めにくい場合には、予備実験で得られたキーワードを例としていくつか示す。選定されたキーワードを用紙の中心に記入してもらい、連想される言葉の記入を始めてもらう。

10分経過後、連想される言葉の記入を終了し、事後インタビューを実施する。ただし10分経過した時点で連想される言葉を記入している途中であればそれを遮らず、一連の言葉を記入し終わるまで待ち、その段階で記入を終了してもらう。記入された言葉を一つ一つ確認しながら、どのような連想であったのかコメントがあれば自由に話してもらう。記入された言葉の読み方、意味、また前の言葉とのつながり方がよくわからない場合には確認の質問をする。思い浮かんだ言葉があるが、例えば他の言葉と同時に思い浮かんだために書き表し方がよくわからずその言葉を記入しなかったというようなところはないか、また連想がキーワードと離れていってしまいそうなので書くのを途中でやめたというようなところがなかったかなどの点について確認する。また10分経過した時点で記入を終了してもらったが、それ以上にまだ連想される言葉が次々に出てくるようであったかどうかについてもコメントしてもらう。以上の事後インタビューにはそれぞれ約20～30分の時間を要した。

3 結果

3.1 結果の記載について

30名の協力者によって選択された全キーワードは以下の(1)に示した通りである¹³。

(1) 連想のキーワードとして選択された言葉：

名 詞：人（2例）、時（2例）、生（2例）、日本、距離、言葉、四、

音、規範、夏、太陽、音楽、海、力、木、家族、季節、自然、
星、花

動詞：教える（2例）、学ぶ、遊ぶ、戦う

形容詞：きれい、やさしい

一つのキーワードから連想された言葉の総数は、一協力者につき22から134までとなり、平均では67.3であった。ただし、例えば「のどのかわき」「目を覚ます」「時間がかかる」「なくてはならない」「うらにるのは誰だ?」「日本の国土の70%は森林です」など、一つの語よりも大きなまとまりをもって連想され記入されているものは、そのまとまりをもって連想された言葉一つと数えることとしている。

なお結果を記載するにあたっては、有名人や歴史上の人物などを除く実在の人物名および個人的な結び付きが強いと考えられるような地名については、そのイニシャルをアルファベットで表記することとした。また表記上の誤りあるいは慣習的な表記との違いなどがあった場合には記入されている通りをまず記載し、事後のインタビューにおいて確認した分をそれらの言葉の直後に〔 〕に入れて示した。また何らかの注釈が必要な場合もそれぞれ〔 〕に入れて示している。

また本稿では言葉のイメージの多重性を探るにあたり、それぞれのイメージの強弱あるいは中心性を連想の順序という観点から検討することはしていない。よってここに示す言葉の連想連鎖の提示順は、必ずしもそのままそれらの連想がなされた順序を示すものではない。

なお以下の(2)のような表記は、ある言葉から連想が枝分かれしたことを示すものである。この例においては「言葉」をキーワードとして「言葉—音—響き—声」という一連の言葉が連想されたのだが、「響き」から「声」へ、また「響き」から「快—不快」へと連想が枝分かれしたことが示されている。また(3)のような表記は枝分かれした連想が再び一つにまとまったことを示すものである。「性」から「男性」と「女性」へと連想が枝分かれし、それが再び「つながり」へとまとまっている。また(4)のような表記は「人—好き—嫌い」という連想連鎖の最後には連結線「—」のみが記入されている。これは記入されている通りをそのまま記

載したもので、その連想連鎖の最後は次に続く言葉が記入されずに終わっていることを示すものである。

(2) 言葉—音—響き—声

—快—不快

(3) 生—性—男性—つながり—組み合わせ

—女性—

(4) 人—好き—嫌い—

3.2 結果全30例

以下に実験の結果30例を順に示す。¹⁰⁾なお、データ番号は全30例の通し番号である。

データ 1

キーワード：人 連想された言葉総数：102

人—性—男—女

人—理性—思考—哲学—学問—教育—子ども—親—老—生—死—世界—世間—

人—エゴイスト—自我—他者—理解—可能—相互理解—よろこび—平和—

人—社会—個人—集団—強い—生きる—楽しむ—善い—悪い—道徳—倫理—美—芸術—絵—音楽—歌う—
悲しみ—別れ—出会い—恋—失恋—

人—善さ—自由—不自由—動物—欲望—解放—個体—

人—名字—名前—名詞—動詞—言葉—うめき—夢—でたらめ—現実—経験—判断—主語—述語—因果—
個体—複数—哲学—神—宗教—まやか—し—べてん—さぎ—鳥—きつき—うぐいす—森—林—湖—

海—魚—わかめ—食物—野菜—栄養—生長—老化—死—生—悲

人—動物—2本足—立つ—猿—知性—言葉—数字—数学—普遍—個体—個人—弱い—

人—好き—嫌い—

・「老」(ろう)は“老いる”という意味で浮かんだイメージ

・「悲」は“悲しい”の意味

データ 2

キーワード：学ぶ 連想された言葉総数：86

学ぶ—人—人間—ヒューマンイズム—関係—平等—博愛—宗教—民衆—国—世界

学ぶ—本—読む—見る—解説—パズル—組み立て—構成—しくみ

学ぶ—教える—話す—演説—講演—壇上—司会—パネルディスカッション—パネラー—知識人—インテリ

学ぶ—先生—生徒—教室—たくさん—個々—個人—性格

学ぶ—学校—勉強—やらねば—労働—休み—祝日—家

学ぶ—ぬすむ—技術—板前—職人—

学ぶ—師—先生—道—武—闘—人

学ぶ—大学—ボローニャ—パリー—ローマ—神学—医学

学ぶ—スクール—スカラー—学派—ラテン—神学

学ぶ—先パイ—後ハイ—クラスメート—仲間—コミュニティ—市民—世界—地球
 学ぶ—名大 [名古屋大学]—大学—院—院生—修士—博士
 学ぶ—積みたて—組み立て—計画—プラン
 学ぶ—技術—職人—弟子—モノ—作る—

- ・「道」(みち)は“^{どう}道”の意味
- ・「武」(ぶ)は“武道”の“武”
- ・「闘」(とう)は“闘う”という意味

データ 3

キーワード：遊ぶ 連想された言葉総数：38

遊ぶ—バイク—山道—峠—ツーリング—旅—海外旅行—放浪—インド—何もしない
 遊ぶ—日射—木—川—鳥の声—キャンプ
 遊ぶ—緑の木々—道端の草花—5月
 遊ぶ—寝る
 遊ぶ—山—歩く—岩—登る—疲れる
 遊ぶ—食べる—おいしい料理—屋台—アジア
 遊ぶ—知らないところ—地図
 遊ぶ—計画しない—行きあたりばったり
 遊ぶ—リラックス—ボーッとする
 遊ぶ—散歩する—ぶらぶらする—休む—迷う—楽しい

データ 4

キーワード：日本 連想された言葉総数：87

日本—貿易—自動車—GNP—GAT [GATT]—牛肉・オレンジ—レモン—ミルクティー—午後の紅茶—
 クレヨンしんちゃん—Tさん
 日本—日本銀行—円安—貯金
 日本—日本語教育—教授法—サイレント・ウェー—ジラバス—文法—O先生
 日本—小さい—せまい—人口が多い—一億人—自民党
 日本—日本新党—さきがけ—細川護国—熊本—西郷隆盛—大久保利通—ロッキード事件—田中角栄—
 戦後
 日本—世界—アメリカ—戦争—ユーゴ—誤爆—ナチス—ヒトラー—かぎ十字—まんじ—お寺—仏教—キ
 リスト教
 日本—金持ち
 日本—自衛隊—PKO—ナチス—戦争—トルストイ—作家—モーリス・ルブラン
 日本—日の丸—君が代—卒業式—色紙
 日本—東京—大阪—名古屋—大都市—せまい
 日本—円 (¥)—円高—海外旅行—台湾—Rさん
 日本—ワールドカップ—ベルマーレ—平塚
 日本—日の丸弁当
 日本—鎖国—幕府—長州—木戸孝允—西郷隆盛—犬—猫—ペット—ワニ
 日本—桃太郎—さびだんご—だんご三兄弟—くろねこのタンゴ—たんすにゴン—広島—横濱—大
 洋ホエールズ—開国

データ 5

キーワード：距離 連想された言葉総数：55

距離—遠距離—恋愛—ジクサー—神だのみ
 距離—長距離—トラック—菅原文太

距離—スポーツジューニアロバイク—まだこれだけ？—のどのかわき—ビール
 距離—ドライブ—目的地—途中の車内も大切—あいつ元気かな？
 距離—飛行機—N [地名]—A [地名] たったの1時間—車で14時間—今までの苦労は？
 距離—対戦型ゲーム—うらにしているのは誰だ？—近いのに遠い—せちがらい世の中
 距離—えんばん投げ—ほうがん投げ—室伏兄弟—日本記録—父は偉大—親の七光り—長嶋一茂
 距離—実家—車で4時間—A [地名] までに比べれば—国道7号線—海沿いのカーブ—稲垣じゅんいち
 距離—心のすきま—すれちがい—疑心暗鬼—
 距離—影—追いつかない—夢と現実
 距離—陸上—マラソン—折り返し—キツイ
 距離—回線—インターネット—ワールドワイド—遠くても近い
 距離—星—光年—光のスピード—ワープ—宇宙せんかんヤマト

データ 6

キーワード：言葉 連想された言葉総数：38

言葉—音—響き—一声
 —快—不快
 言葉—意味—メッセージ
 言葉—コミュニケーション—相互理解—共同作業
 —ディスコミュニケーション—不和
 言葉—人間—高倉健—無口
 言葉—うっとうしい—やっかい—省略
 言葉—コントロールシステム—バロウズ—
 —他者—自我—無意識
 —単一性
 言葉—方言—階級—社会
 —山形弁—津軽弁
 —若者コトバ
 言葉—文学—ラップ
 —ダダイズム—ジョイス
 言葉—言語—英語—日本語—スペイン語

データ 7

キーワード：四 連想された言葉総数：22

四—ボックス席—旅行
 四—四季
 四—カードのスーツ—赤と黒
 四—ピラミッド
 四—机—椅子
 四—finger
 四—方位—磁石
 —風
 四—正多面体—太陽系—バルカン
 四—研究室
 四—エレベータのない建物—疲れる
 —寮
 四—火星—アンタレス—心臓

データ 8

キーワード：音 連想された言葉総数：61

音—楽器—ピアノ—ハーブシコード—エレクトーン—オルガン—鍵盤—ハーモニカ—シンセサイザー
 —フォルテ—フォルテッシモ—メゾフォルテ
 —トランペット—トロンボーン—ホルン—チューバー—ユーフォニウム
 —フルート—クラリネット—サクソフォン—オーボエ—イングリッシュホルン—ファゴット
 —バイオリン—ビオラ—チェロ—コントラバス
 —ティンパニー—シンバル—大太鼓—小太鼓
 音—声—人間—叫び—あくび—いびき—しゃっくり
 —動物—わんわん—にゃんにゃん—ぶーぶー—カーカー
 —虫—チンチロリン
 音—自然—森—さわさわ—そよそよ
 —川—さらさら—ゴ—ゴ—
 音—騒音—都会
 —車—ブーブー
 —工場—ガタンガタン
 音—アラーム—時計—ケータイ—パソコン
 —火災報知器
 音—光

データ 9

キーワード：規範 連想された言葉総数：93

規範—家庭—おしつけ—役割—男女—変化—時代
 規範—お茶—掛け軸—定家—研究—書道—美
 規範—全体—部分—差異
 規範—社会—システム—おやじ—抵抗—批判—変化
 規範—ダイヤ—列車—秩序—細部
 規範—研究—テーマ—時代—人—体験—
 規範—夢—希望—高校生—現実—ギャップ
 規範—形—色—におい—感—しょく
 規範—イデオロギー—差異—真理—真実—
 規範—方言—共通語—標準語—パワー—思い—
 規範—時代—国家—地域—家庭—学校—個人
 規範—書式—はんちゅう—分野—専門—力
 規範—関係—国際—日本—自由—平等—博愛
 規範—美—力—イデオロギー—差異—地域差—時代差
 規範—現代—過去—未来—
 規範—パワー—年齢—上—下—差異—差別
 規範—文法—ソシユール—変換—生成—チョムスキー
 規範—男女—学校—就職—いきちがいがい
 規範—ベッド—ねぞう—夢—現実—感じ方

データ 10

キーワード：夏 連想された言葉総数：75

夏—海—砂浜—ビーチ—パラソル—スイカ
 —やしの木—ゴミ—カン
 —ハンモック
 —水着—ビキニー—うきわ—ゴムボート
 —日焼—オイル
 —ホテル—夜景
 —クジラー—イルカ—シャチ—魚—水ぞつ館 [水族館]—ペンギン—氷

夏—山—コテージ—BBQ [バーベキュー]—ビール—友人たち
 —テニス—汗—シャワー
 —か(虫)—かとり線こう—けむり
 夏—ビール—つまみ—やきとり—BBQ
 —のどごし—いっき—
 夏—アイス—かき氷—腹痛—薬
 夏—休み—長い—暇
 夏—宿題—絵—作文
 —遊ぶ—虫とり
 —水泳
 夏—スポーツ—野球—サッカー—テニス
 —観戦—ビール—焼きそば
 夏—花火—まつり—ろ店—とうもろこし
 夏—クーラー—すずしさ—体調不良—腹痛
 夏—8たい [毎年7月に行われるバイクの8時間耐久レース] —モータースポーツ—車
 夏—汗—むし暑い—ねぐるしさ—ホラー

データ11

キーワード：時 連想された言葉総数：46

時—時間—分—秒
 時—時刻表—電車—バス—テレビ覧
 時—日 [(ひ)]—曜日—月
 時—フロ—寝る
 時—日程—スケジュール—カリキュラム
 時—生計—人生—就職
 時—時計—流行—ファッション
 時—時差—日付変更線—国境—地図
 時—季節—移り変わり
 時—新聞—時事
 時—西暦—こよみ
 時—食事—生活—リズム
 時—講義
 時—始—終
 時—時代—歴史—歴史小説—大岡昇平
 時—金—カ—アルバイト
 時—タイムマシーン—パラレルワールド

- ・「始」は“始まり”の意味
- ・「終」は“終わり”の意味

データ12

キーワード：太陽 連想された言葉総数：41

太陽—8月—真夏日—熱帯—むしあつさ—かわき—水
 太陽—太陽のとう [塔]—岡本太郎—大阪万博
 太陽—青空—飛行機—ぐも—
 太陽—天気—
 太陽—星—夢—ながれ星—はかなさ
 太陽—光—まぶしい—夏—海
 太陽—かがやき—名誉—ヒーロー—黄金—

太陽一月一地球一宇宙

太陽一熱一

太陽一サンシャイン60一池ぶくろ一山手線

太陽一夕やけ一朝やけ一にじ一にわか雨一

一ジャングルースコール一シャワー [気象用語]

太陽一エネルギー一光合成一植物

データ13

キーワード：戦う 連想された言葉総数：69

戦う一勝つ一力一力まかせ

一イヤラシ一弱み一強さ一無理やり一強情

一ヨケ一ヨケそこね一かする一多少の傷一無傷無理一傷つく覚悟

戦う一負ける一泣く一怒る一ゆるす一宗教

一笑う一笑わせる

一悔しい一耐える一戻る一やりなおし一みかえす

一バカにする一やりかえす

戦う一逃げる一追う一追いつかない

戦う一放棄一戦力一9条一自衛隊一米軍一NATO一コソボ空爆

一殺人一私的一罪一犯罪一刑罰一正当

一公的一英雄

一核一全滅一出直し

一利口一和解一話術一スマート

戦う一平和一調和一静か

戦う一けしかける一チョーハツする [挑発する]一まちぶせ一じりじり一あせり一つたない

一犬一犬闘

一作戦一巧妙

一冷静沈着一激怒一スキ

データ14

キーワード：教える 連想された言葉総数：37

教える一先生一こわい一おこる

一きびしい一宿題

教える一大学一教授一研究

一えらい

教える一準備一苦労

教える一楽しい一理解してもらえた

教える一難しい一理解してもらえない

教える一塾一受験一競争

一合格一不合格

一うれしい

教える一勉強一好き嫌い

教える一学校一授業一予習一復習

一義務一規則

教える一教わる一生徒一大変一まじめ

一理解できた一好き

一理解できない一嫌い

データ15

キーワード：音楽 連想された言葉総数：34

音楽—楽器—打楽器—たいこ
—管楽器—
音楽—メロディー—口ずさむ
—口笛
音楽—コード—メジャー
音楽—音符—楽ふ—ト音記号
—五線ふ
—おたまじゃくし
音楽—映画—ラストエンペラー
音楽—授業
音楽—クラシック—印象派—ドビュッシー
—バロック
音楽—音—絶対音感
—音又
音楽—リズム—拍—シンコペーション
音楽—ダンス—タンゴ
音楽—演奏—ライブ
—コンサート
—ソリスト
—トリオ

データ16

キーワード：きれい 連想された言葉総数：76

きれい—夕やけ—海—波—地平線—船
きれい—へや—大きな窓—一枚ガラス—朝日
きれい—木—新緑—かぜの音—山
きれい—ししゅう—ししゅう糸 [ししゅう糸]—手芸店—毛糸—セーター
きれい—中国語—よくよう—リズム
きれい—詩—気もち—心の動き—喜び
きれい—高山植物—輪
きれい—女の人—おしゃべり—仲間—つどい
きれい—色えんぴつ—水彩画—安野光雅—つわの—しゅうがくりょうこう 修学旅行
きれい—水—わき水—泉—あふれる
きれい—島—船—運転—風—笑顔
きれい—夜景—ビルのあかり
きれい—布地—もめん—手ざわり—やわらかい
きれい—音楽—バロック—四季
きれい—ダンス—体の動き—筋肉—トレーニング—トレーニングジム
きれい—空—星空—星—満天
きれい—花—バラ—かおり—アロマテラピー—ホワイトローズ
きれい—え—えのぐ—24色
きれい—池—大正池—上高地—からさわ—北アルプス

データ17

キーワード：海 連想された言葉総数：91

海—広い—大きい
海—海水浴—水着—こども—学校—通知表—テスト—勉強—つらい—がんばる
海—泳ぐ—昔苦手—数学—理系—イヤな人
海—旅行—行きたい

海—一番—とりたいたい—虫—つかまえたことない
 海—山—キャンプ—林間学校—はんごうすいさん—だっけ?—カレー—手づくり
 海—海流—4つおぼえた—火山帯も—でももう受験で必要ないって
 海—おぼけ—丹ば哲郎—あなたのしらない世界
 海—通信—軍の指令部とか—映画みたい—かっこいい—やってみたいな
 海—くらげ—ぶよぶよ [ゲームの名前]—ゲーム—DDR [ゲームの名前]—つかれるけど楽しい—また
 やりたい—カヤックもそう—チンすると水のむらしい
 海—かもめ—研ナオコ—中島みゆき—暗い—失恋—もうやだ
 海—ダイビング—免許—お金かかる—時間もない—こんな生活や
 海—船—ヨット—自作—木工—のこぎり—けが—痛い
 海—水難事故—さめ—たべられる—ジョーズ—スビルバーグ—近頃おもしろくない—アメリカ人—ちょっと嫌い—人種差別?—でもしょ—がないよね
 海—川—つり—いわなとか?—あゆ—塩焼き—骨—のど
 海—ラッコ—コアラ—これじゃしりとり—しりとりぎゃくむきが難しいらしい—一回やってみたい—馬も乗りたい—なんかかっこいい—バイオリンも—

データ18

キーワード：力 連想された言葉総数：134

力—つよい—強さ
 力—ふつ—つ—わき出る
 力—結び—付ける
 力—話す—声—細くない—よわくない
 力—踏み出す—一歩—前進—たゆまず
 力—望む—念じる—その通り
 力—エネルギー—高まり—好調
 力—勇氣—愛—涙
 力—信じる
 力—眠り—覚める
 力—いきなり—突風—なぎ倒す
 力—継続—真面目—努力
 力—切り開く—未来—明日—今日—今—瞬間—このとき
 力—英雄
 力—突破
 力—ふりしぼる
 力—やぶる
 力—ふりおろす
 力—ヒーロー
 力—たたく
 力—晴れ
 力—五月晴れ
 力—近づく
 力—生きる—人生—山あり谷あり
 力—動かす—一人—人の群れ—感動
 力—馬—走る—たてがみ—ゆれる—なびく
 力—太鼓—音—力強い
 力—暴力—裁判
 力—大地—北海道—行きたい
 力—体の動き—ダンス
 力—与える

カ一夢

カ一はじける一若さ一勢い一風
カ一しなやか一やわらかい一しなう
一柔軟

カ一大波一波頭
一のみこむ

カ一力！
カ一かつ！ [喝]
カ一花咲く
カ一勝つ一勝負一戦い
カ一見破る一看破する
カ一前向き一勇気
カ一作る一創る一つくる
カ一目に見えない一心に愛をくれる
カ一風一風力一発電一オランダ
カ一愛のカ一お母さん一子供
カ一生命一生命のしるし
カ一光一太陽
カ一打つ一テニス一スマッシュ
カ一夏一輝き
カ一大きい一包みこむ一許す一愛情
カ一気のカ一見えないカ一つよい一一番つよい
カ一心の強さ一勇気一夢一実現一未来一今
カ一見る！一目を開ける一目を覚ます
カ一もらう
カ一車一動く

データ19

キーワード：木 連想された言葉総数：69

木一木陰一すずしい一日傘一太陽一まぶしい一日やけ一美白
木一家具一フローリング
木一森林浴一ヒーリング一アロマセラピー一パルコの8F
木一紙一再生紙一リサイクル一ゴミ問題一藤前干潟一名古屋市
木一ガーデニング一母の趣味一花
木一葉っぱ一柏もち一子供の日一こいのぼり
木一ノルウェイの森一村上春樹
木一桜の木一桜の花一葉っぱ一毛虫一怖い
木一青ターはっぱ
木一生命力一赤ちゃん一お母さん
木一植林一砂漠化
木一桐ダンス一結婚式一派手
木一屋久島一屋久杉一屋久島のCD一水の音
木一樹形図一生成文法一むずかしい
木一根っこ一でこぼこ
木一大きい一この木なんの木一歌一日立
木一新緑一青い
木一山一山のぼり一ハイキング一おべんとう
木一名大 [名古屋大学]一遠い一広い
木一白樺一高原一牛乳一ソフトクリーム一おいしい

データ20

キーワード：やさしい 連想された言葉総数：36

やさしい—おだやか—静—風景—気もち—旅行
 やさしい—思いやり—きびしさ
 やさしい—あまい—しつけ—親—母親—現代の教育—子育て
 —お金
 やさしい—従順—非個性的—相手になびく—相手を非ナンシない—まちがっていてもみてみぬぶり
 やさしい—心くばり—相手の心—うれしさ—満足—自己満足—ギマン？
 やさしい—八方美人—表面的
 やさしい—環境—エコロジー—リサイクル—ゴミ
 やさしい—親切—援助
 やさしい—健康—食事—命

・「静」(せい)は“静か”の意味

データ21

キーワード：家族 連想された言葉総数：63

家族—母—父—弟—4人
 家族—家—だんらん—明るい—のんびり—うだうだ—ただなら
 家族—テレビ—笑い—会話—父—弟—母—私
 家族—思いやり—支え合い—やさしさ—寛容—忍耐
 家族—庭—花—太陽—世話—愛情
 家族—わがまま—忍耐—愛情—許し
 家族—会話—音楽—理解—伝承—くり返し—父—弟
 家族—病—支え—愛情—忍耐—寛容—理解
 家族—恋人—家族—支え—束縛—許し—愛情—忍耐
 家族—未知—不安—覚悟
 家族—未来—独立—支え合い—理想
 家族—歴史—戦争—祖父母—苦勞—幼少時代

データ22

キーワード：人 連想された言葉総数：92

人—つながり—糸—細い
 —くも [蜘蛛]—雲—青空—はれ—雨—水—川—海—つり
 —ハイキング—みんな—あつまり
 —歩く—つかれる

 —手—5—きりがいい
 人—進化—うちゅう人—UFO—星—銀河—光年
 人—2本足—さる—りんご—バナナ—黄色
 人—生きる—一生懸命—汗
 —スポーツ—サッカー
 —テニス
 —野球—おうえん
 人—考える—頭—みがかく—玉—赤と白—賭け—負ける—お金—かいもの—洋服
 —毛
 —勉強—時間がかかる—コンピューター—目
 —メール—返事—手紙—住所—50円切手
 —本—よむ—たのしい

人—たのしむ—うた—音楽—楽器—ギター
 —ピアノ
 —バイオリン
 —テープ—CD

人—^{じん}〜人—数え方—種類
 人—食べる—食事—作る—あげる [揚げる]
 —やく
 —いためる—中華料理—おいしい
 —酒—さわぐ—おこられる
 —のむ

人—国—摩擦—戦争—悲しい
 —おばあちゃん—年より

・「くも [蜘蛛]—雲—青空」の部分は、「雲」が後から書き加えられている。

データ23

キーワード：季節 連想された言葉総数：89

季節—夏—暑さ—空気の重さ—陽射し—白い—陰—スペイン—生と死—闘牛—マタドール—タイツ—く
 つ—槍—血—陰と陽—
 季節—はたる—都会—観光—みせもの—にせもの
 季節—変化—転換—焦り—うつ病—
 —ノスタルジー—郷愁—個人的なもの—共有
 季節—常夏の国—サイパン—海辺—ビーチパラソル—サングラス—水着—バスタオル—ねそべる—トロ
 ピカルジュース—本—読書—長時間—夕暮れ—沈む—暗闇—風—木々—ざわざわ
 季節—気候—四季—記憶—層—つみ重なる—つもる—荷物—重い—捨てる—捨てない—選ぶ—分ける—
 欲張り—つらい
 季節—初夏—緑—木—葉—根—くさる—生きる—植物—花—ゼラニウム—赤—ヨーロッパ—窓—路地—
 洗濯物—揺れる—風—海辺—教会
 季節—誕生日—生まれる—天気—さむい—雪—眺める—同じ景色—フシギな気分—神聖さ—くり返し—

データ24

キーワード：自然 連想された言葉総数：69

自然—大きい—山道—車—友達—ダム—日本の国土の70%は森林です—温泉—夜—終電—さみしいね
 自然—山—田舎—おばあちゃん—おふろ—考えごと—けんか—反抗期—テスト—中学生—制服
 自然—流れる—変わる—こと—不安
 自然—つゆ草—詩—高校生—学校
 自然—キャンプ—はんごうすいさん—カレーライス—雨—川—水筒—お茶—麦茶—夏—ひまわり—朝顔—
 朝—ラジオ体操—スペイン語—
 自然—雨—川—魚—金魚—緑日—ゆかた—花火—夏休み
 自然—山—花—西洋おだまき—小さい—西洋おだまき—ピンク色—Yちゃん—手紙—音信不通—もう会わ
 ない—謝る—ごはん—オムライス—Cさん—東京—Hさん—赤ちゃん—お父さん
 自然—太陽—夏—映画—冷房

データ25

キーワード：星 連想された言葉総数：25

星—きらきら—やみ—宇宙 [宇宙]—広大—せつない
 星—部活—屋上—流星群—ともだち—
 星—青空

星—ともだち—親交
星—生きがい—よろこび—なくてはならない
星—静寂—遠い—はかない—昔の光—確かな存在
星—宝石
星—スター—かがやいている人—味がある
星—望遠鏡

データ26

キーワード：花 連想された言葉総数：72

花—みつ—ケーキ—ホイップ—レーズン
花—春—さわやか—うれしい
花—係—小学生
花—チューリップ—球根—花だん—土—よう虫—小学校
花—教室—先生—チョーク
花—桜—花見—毛虫—散る—緑
花—桜草—草—くさい
花—てんとう虫—なのはな—ちょう—くも—が
花—花言葉—占い—占い師—N [人名]
花—店—店員—夢—きれい—手あれ—エプロン
花—マッキー [ミュージシャンの名前、花が好きで花の名前をタイトルにした歌がある]—花水木—くちなし—花好き—友達
花—おけいこ—C [人名] —バレエ—マンガー—お嬢
花—キンモクセイ—つわり—お母さん
花—プレゼント—女の子—事務所—アレンジメント
花—花がら—スカート—ワンピース—女の子—らしい—ほしい
花—ハチ—ハチのす—凶暴—めんえき
花—ゆうが—ゆとり—リラックス—うらやましい—暗い

データ27

キーワード：教える 連想された言葉総数：88

教える—話す—相手—理解—言葉
教える—教え—まもる—子供—小さい—弱い
教える—先生—指導—正しい
—きびしい—しかる
—学生—勉強—したくない—やめる
—がまん—よくない
教える—教室—黒板—チョーク—ケーキ—した音—ガラス—カラス
—わるる
—よごれる—白—手—足
教える—人生—生きる—苦悩—のりこえる—Kのりこ [人名]
教える—情報—便利—ほしい
—量—きょうそう—あらそう—戦う—まちがえ
教える—わかってもらう—説得—相手
—考え
教える—授業—準備—必要—水—海—深い—愛
—火—炎—オレンジ色—太陽—天体—宇宙
—めんどう—くさい—くさい—くさっている—冷蔵庫
教える—教育—親のしつけ—わがまま—ままは—シンデレラ
—実習

教える—声—きこえる—耳—3 3 [(みみ)]—9

教える—ひみつ—かくされている—あばく—はずかしい
 —知りたい—好奇心—冒険—けわしい道—人生
 —夢—進むべき
 —ねむたい

データ28

キーワード：生 連想された言葉総数：88

生—生活—住む—探す—居つく—息をつく
 —食べる—働く—金をもらう—物を買う
 —衣—見栄—ファッション [ファッション]—飾—虚栄心
 生—りんじょう感—スポーツ—勝敗
 —応援—青春—1 時期のもの
 生—アルバム—思い出—過去—傷—いやし
 —未来—夢—希望—現実
 生—老化—自身の変化—肉体的—成熟—はりのなさ—枯れる
 —精神的—成熟—は気のなさ
 —分別・知識
 —成長しつづける—悟り？
 生—解放感—ベルリン—自由—鳥—空—宇宙—無限
 —一人ぐらし—電話—いたずらでんわ
 生—無常観—移りかわり—時代—価値観 [価値観]—
 生—苦しみ—病氣—限界を知ること
 —親しい人の死—無力感—生きる意義の探求
 生—遊ぶ—友だち—心を許す—いいこい
 生—恋—恋人—愛情—結婚—老化—同居
 —離婚
 —冷め—別れ
 生—歌う—美空ひばり—カリスマ—人々の希望
 生—考える—悩む—成長する
 生—死—無—宇宙—無限
 生—時間—有限
 生—たまご [“生たまご”という連想]

・「衣」(い)は“衣食住”の“衣”、“洋服・着るもの”の意味

データ29

キーワード：時 連想された言葉総数：66

時—流れる—過ぎる—経る—たつ—すごす—去る—かかる
 —流出—切れ目が無い—続く
 時—とけい—針—回る—チクタク
 時—忘れる—忘れもの
 時—透明—とける—消える
 時—長い—短い—楽しい—忘れる
 —味わう—色
 時—待つ—遅刻—怒る
 —遅い
 —待ち合わせ
 時—有限—区切り

時—不定
 時—主観—自分
 時—成長—大人—成熟—古くなる
 時—矢—矢印—方向
 時—見えない。—見える
 時—いつも—気になる—イライラ
 時—価値—お金—買えない
 —大事
 —無駄
 時—遠い—近い—隔てる
 時—つぶす
 時—経験—蓄積—たまる—役に立つ
 —荷物
 —価値—年をとる—古くなる
 —しわ—年輪

データ30

キーワード：生 連想された言葉総数：77

生—人—つながり—愛
 生—見つか—見つける
 生—つづく—永遠—回帰
 —くりかえし
 生—ひとりひとり
 生—大切
 生—小さい—ちっぽけ
 生—はじける—粒
 生—愛—いたわり
 —やさしさ
 —きびしい
 生—現実—生きる
 生—夢—抱く
 生—悩み
 生—輝き
 生—生まれる
 生—始まり—終わり
 生—家族—あたたかい
 —家—つくる
 —人
 生—よろこび—哀しみ—いたわり
 生—性—男性—つながり—組み合わせ
 —女性—
 生—迷う—考える—とまる
 —すすむ
 —悩む
 生—何？
 生—見つか—見つける
 生—豊か—濃い—濃密
 生—子供—笑顔
 生—生きる
 生—of your own—自分の—自身の

生—見きわめる—選ぶ—捨てる
 —すすむ
 生—多様—いろいろ
 生—人—多—い—た—く—さ—ん—そ—れ—ぞ—れ
 生—生—ま—れ—る—愛—情—父—と—母—子—供
 生—すすむ
 生—満—た—す—心
 生—交—わ—る—重—なる

4 おわりに

本稿では、言葉のイメージの多重性を探るため言葉の連想を手がかりとした実験を行い、その概要および結果をまとめ報告した。なお関連を有する先行研究(Langacker (1987-91))の検討、また本稿の結果をもとにした言葉の新たな意味可能性の生成についての考察は鈴木(1999a)において行っている。本稿および鈴木(1999a)を踏まえたさらなる総合的な考察は、稿を改めて行うこととしたい。

付記：貴重な時間をさき本稿の実験に協力して下さった皆様に感謝し、ここで重ねて御礼申し上げます。

注

- (1) 本稿ではこのように漢字で表記した「言葉」を、いわゆる語に限らず句や文や複数の文までを含む広い範囲にわたる単位を表すものとして用いる。ただし本稿で報告する言葉の連想を手がかりとした実験においては、複数の文をひとまとまりの言葉として連想した例は見られなかった。
- (2) よってここでの「イメージ」とは、心理学で言われるところの心的に想起される“像”のことを指すのではない。即ち外界から感覚器官に実際の刺激が与えられないにもかかわらず、ある音や光景などが心に思い浮かべられる体験のことを意味して言うものではない。また言葉の「価値」の豊かな広がりというのは、“+”の尺度に還元されるような“価値”のことを言うものではない。よってこの「イメージ」とは、ある言葉に対しての「快⇨不快」「明⇨暗」「強⇨弱」など、何らかの単純な尺度に還元されるような“印象”のことを指すものでもない。
- (3) 赤羽(1998:5)は一つの言葉の意味は、その言葉の背後からそれを支える他の多数の言葉が重ね合わされることによって生み出されるとの考えを示しており、本稿の考えるイメージの多重性の考え方はこの考えに最も近い。また赤羽(1998:70-71)はこのよう

な考え方は既にリチャーズ (1961:33-34, 54, 59) (Richards (1976:34-35, 57, 63)) の文脈 (“context”) の概念に示されているとする (引用ページは本稿による)。赤羽 (1998) は詩に見られる隠喩を分析することにより、このような言葉の重ね合わせについて考察している。

- (4) ここで「通常の言葉」とするのは、詩やいわゆる文学における言葉に考察の対象を限定するものではないこと、また特に「言葉のあや」が認められる場合のみに着目して考察を進める視点をとるものではないということの意味する。ここで「言葉のあや」というのは、「常識的な平常表現からいくらかへだたった、目立つ、特別なことばの型」(佐藤 (1992:49-53)) のことである。レトリックの体系における、効果的な言語表現を行うための形式・パターンのことを指す。
- (5) ここで「実証的」とするのは実際に実験を行うことを通じて言葉のイメージの多重性を例証するという意味であり、実験によって得られた結果を何らかの形で数量化しそれを計量的に考察するという意味するものではない。
- (6) 丸山 (1981, 1983, 1984) は言葉の本質とは、連続体である世界をカテゴリー化することにより表現 (シニフィアン) と内容・意味 (シニフィエ) との結び付きを新たに生み出すことであると、これを言葉の本質的な「非記号性」(丸山 (1981:237, 1993:17)) であるとする。「記号」なるものが、自らとは異なる別の何かを指さしそれを代行・再現するもの、あるいはそれらのものに付けられた名前のことと言うのであれば、言葉の本質はその意味においては「記号」ではないとするものである。
- (7) 力動記号学では新たな意味可能性を生み出す記号行為として、レトリック、複数のテキスト間の対話によるテキスト相互連関性の確立、アナグラムなどによるポリフォニー (多声) 性の奪回などの操作が考えられている (丸山 (1981:169, 1993:81-91))。しかし本稿ではそのような操作を経なくとも、形式上何ら通常言葉と変わることはない一言の言葉を表出することにより、新たな意味可能性を生み出すことも可能であると考える。
- (8) 連想される言葉に特に制限を加えないこのような連想は「自由連想」と呼ばれる (梅本 (1969:3-4))。一方「刺激語の上位概念を挙げる」あるいは「刺激語に類似した語を挙げる」など、連想される言葉を指定して行うものは「制限連想」と呼ばれる。刺激語を与えずに心に浮かぶままを順次述べていくという自由連想もある (梅本 (1969:3-4)) とされるが、本稿では連想の中心となる刺激語 (キーワード) を定めた上で自由連想を行った。
- (9) 例えば「いわし—魚」「重要—大切」「降りる—電車」などの連想結果を見ると、「いわし」が「魚」の一種であること、「重要」と「大切」とが意味の類似した語であること、「降りる」と「電車」とは「電車を降りる」という形で結ばれ得る語であることなどの関係を見てとることができる。
- (10) 本稿の実験を行うにあたっては11名の短大生の協力を得て4月に予備実験を行っている。この予備実験により、言葉を記入する時間やキーワードの選定など実験手順についての方針を定めることができた。
- (11) イメージの内容そのものには、個々の協力者による多様性がもちろん認められること

- になるだろう。しかし、性別、年齢、出身地、職業および専門などの社会的な要因が、言葉のイメージの多重性の形成に関し、原理的に影響を及ぼすことはないとは本稿では考える。
- (12) 連想のキーワードを実験の協力者自身に設定してもらったことの意味は、協力者自身が何らかの形で興味・関心を持ち連想のしやすい言葉がキーワードとなるようにとの配慮である。
- (13) 予備実験では「ありがとう」など感動詞に分類される表現もキーワードとして選択される例があったが、今回の実験では名詞、動詞、形容詞以外の品詞の言葉は選択されなかった。
- (14) 社会言語学的な要因のもとに言葉のイメージの多重性について分析・検討することは本稿の目的ではない。よって全30例の結果については、各々の協力者の性別、年齢、出身地、専門などを個別に公表することはしない。

引用文献

- 赤羽研三 (1998) 『言葉と意味を考える』Ⅰ・Ⅱ 夏目書房 (第Ⅰ巻 隠喩とイメージ)
- 梅本堯夫 (1969) 『連想基準表—大学生1000人の自由連想による—』東京大学出版会
- 佐藤信夫 (1992) 『レトリック感覚』講談社学術文庫 (初版 講談社 1978年)
- 鈴木智美 (1998a) 『『〜てしまう』の意味』『日本語教育』97号 pp.48-59
- 鈴木智美 (1998b) 「日本語研究における『モダリティ』論の問題点—モダリティは『主観的』な意味要素か—」『ことばの科学』第11号 名古屋大学言語文化部 pp.243-256
- 鈴木智美 (1999a) 「言葉を取りまく言葉—言葉のイメージの多重性を探る—」(第2回認知言語学フォーラムにおける口頭発表およびハンドアウト) 於京都大学大学院人間環境学研究科
- 鈴木智美 (1999b) 「言葉の記号性と非記号性—話者の内的体験と言葉との関わりを考えるための視点として—」『ことばの科学』第12号 名古屋大学言語文化部 pp.145-170
- 丸山圭三郎 (1981) 『ソシュールの思想』岩波書店
- 丸山圭三郎 (1983) 『ソシュールを読む』岩波セミナーブックス2
- 丸山圭三郎 (1984) 『文化のフェティシズム』勁草書房
- 丸山圭三郎 (1993) 『(増補完全版)文化記号学の可能性』夏目書房 (初版 日本放送出版協会 1983年)
- リチャーズ, I. A. (1961) 『新修辞学原論』石橋幸太郎 (訳) 南雲堂
- Richards, I. A. 1936. *The Philosophy of Rhetoric*. New York: Oxford University Press. Repr. 1976.
- Langacker, Ronald W. 1987-91. *Foundations of Cognitive Grammar*. 2 vols. Stanford: Stanford University Press.